

なぜ日本中で
考える必要があるの？

地層処分

これまでの原子力発電の利用で生まれた「高レベル放射性廃棄物」。各国が自国内で「地層処分」することが、国際的な共通認識です。処分地選定を先送りせず、社会全体で考える必要があります。

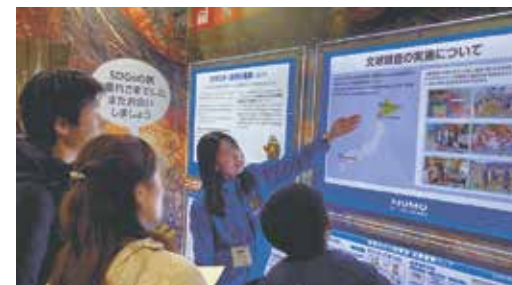
「高レベル放射性廃棄物」の より安全な処分のために

原子力発電所で使用した燃料から生じる「高レベル放射性廃棄物」を、地下300メートルより深い安定した岩盤に安全に埋設する処分方法—これが「地層処分」です。安全を最優先に適地を選定するには、複数の地域で、科学的根拠に基づいた調査が不可欠です。これは一部の地域だけの問題ではなく、国全体で取り組むべき課題です。

今ある廃棄物の処分について、 将来世代に負担を残さないために

私たちは日常生活で電気を使用しています。その一部は原子力発電によるもの。日本ではすでに、「高レベル放射性廃棄物」が「ガラス

固化体」に換算して約28,000本分*存在しています。電気を使う私たちにとって、廃棄物の処分「地層処分」は、一緒に考える必要のある大切なテーマです。NUMOは、全国各地で皆さまと対話を重ねながら、様々な声に耳を傾ける活動を続けています。将来世代に負担を残さないために、皆さま一人ひとりのお考えをお聞かせください。



2025年12月10～12日「エコプロ2025」
NUMOの展覧ブースにて、来場された皆さまと対話

※2026年3月末時点

日本中で考えよう。地層処分のこと。

